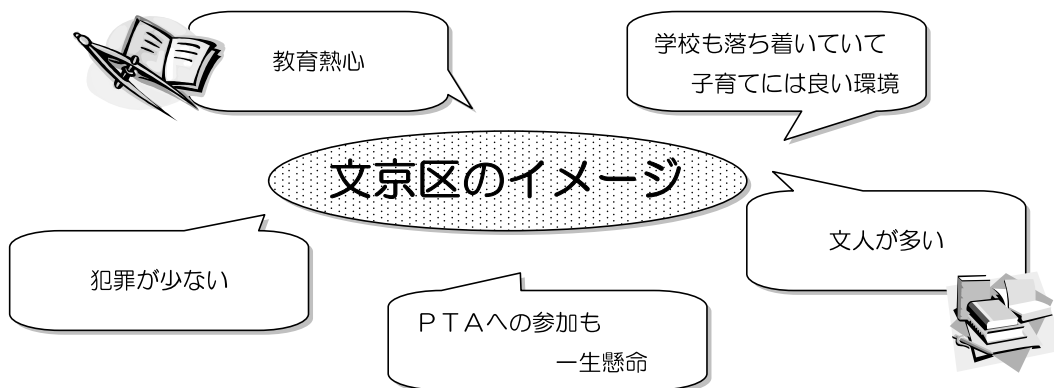


第II章 青少年の自立

1 「文の京」の青少年

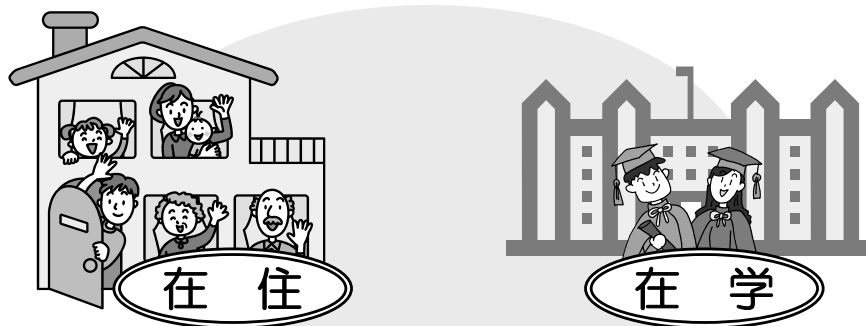
<「文京区」らしさ>



良いイメージは素直に受け止め、子どもたちにとっても誇れる「ふるさと」にしていきたいものです。

<「文の京」の青少年>

このプランは、文京区らしさを大切に「文の京」の青少年健全育成を意識しています。文京区の青少年と言えば、在住の青少年を第一に考える事は当然ですが、学校数の多い地域性を考慮し、区外から文京区に通っている在園・在学の青少年についても、同じように大切に考えています。



<私は「青少年」?>

このプランで、青少年とは…



…を差すことにしています。

「青少年」という言葉に、法律等で定められた明確な年齢基準はありません。そこで、本プランでは、<3歳になると、幼いながらも保育園や幼稚園という「社会」に出て、「自立」の第一歩を踏み出す子どもが多くなる。一方、学校を卒業し、一般的に言う「社会人」となる時期は人それぞれである。どの時点で「自立」したか、いつになったら「おとな」なのかという判断は一概には言えないが、20代前半のいわゆる青年層に対しても、若い力の積極的な活用やリーダー的資質の向上など、社会がサポートできることもある。そして、25歳になれば、大多数の青年が社会における「おとな」としての位置を確立している段階となり、「青少年」としてのアプローチの必要がなくなる。>と考え、青少年を3歳から25歳と捉えることにしました。

しかし、このプランの内容は、青少年だけに訴えていけばいいものではありません。第I章で見てきたように、「おとなが変わらなければ、青少年も変わらない」。そこで、このプランに基づいて行動してほしいのは、青少年と、すべてのおとなたち（そう！本書を手に取っているアナタも！）

<このプランの根底にある考え方>

青少年健全育成を支援する事業を行うにあたっては、当然のことながら、**人権尊重の考え**が根底に流れています。子どもの権利を尊重することはこのプランの中でも中心となる考え方であることは言うまでもありませんが、**男女平等参画**^(註1)の考え方、**ノーマライゼーション**^(註2)の考え方なども含め、すべての人権を尊重する青少年を育てていくということを、おとなが常に意識していなければなりません。



(註1) 男女平等参画の考え方とは… 男女が、社会の対等な構成員として自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うこと。

(註2) ノーマライゼーションの考え方とは… 障害のある人もない人も、児童も高齢者も、すべての人が普通（ノーマル）の生活を送ることを当然とし、ともに認め合って普通の生活ができる社会を創造すること、またその考え方。

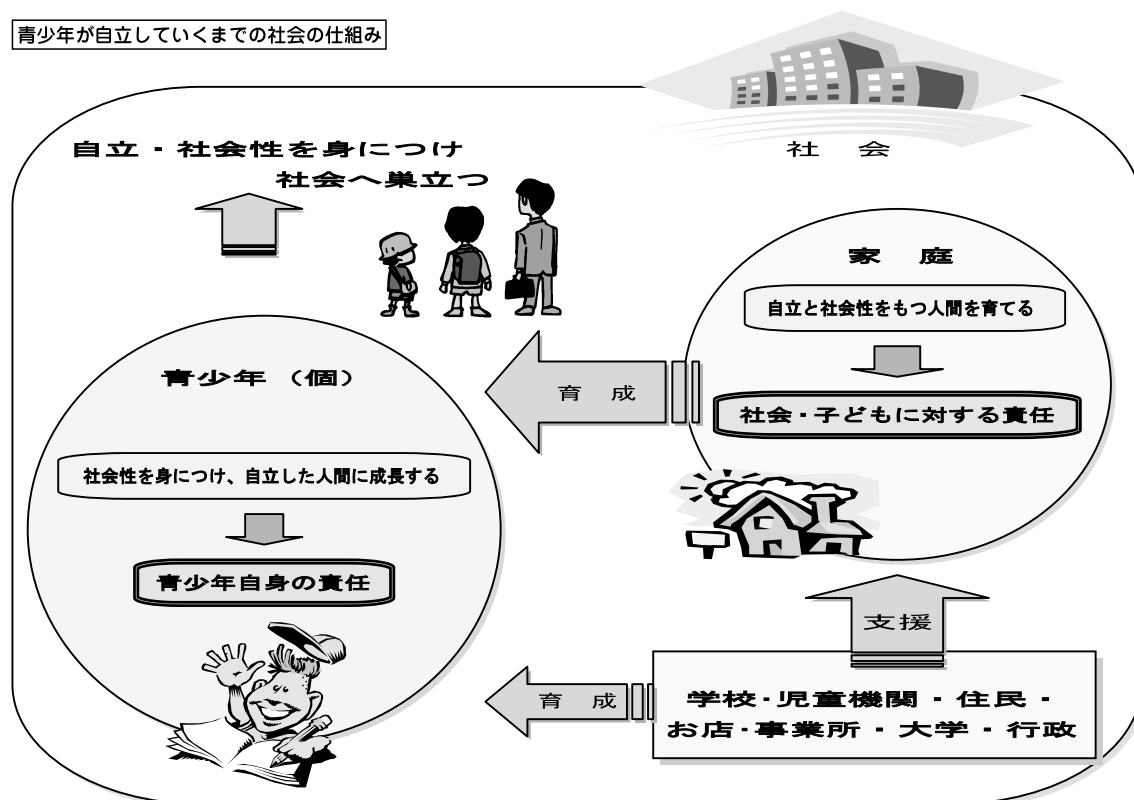
2 青少年の育成ビジョン 青少年の権利と責任

このプランで目指す青少年の育成ビジョン（未来像、将来展望）のキーワードは「**自立**」と「**社会性**」です。

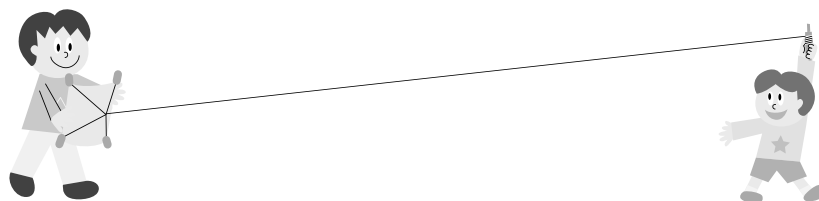
つまり、自立することの意味と社会性を身につけ、社会へ巣立ってほしいと願うものであり、そのためなら、おとなや社会全体でのサポートは惜しみません。しかし、ただ期待しているだけでは実現は難しいものです。

青少年一人ひとりには、社会における自分の位置を確認し、意識をもって、努力してほしいと考えます。また、青少年を支える社会も、当然そのような人間を育成していくという目標があります。第I章「おとなの意識改革」を受け、特に、青少年の心と体をバランスよく育成する基礎となる家庭は、各機関の中でも青少年にとっての大切さや責任が際立っています。そして、そのまわりでは学校や地域などが家庭を支援し、また直接的にも青少年を「社会性」を持って「自立」していける人間として育成していく責任があるのです。つまり、下記の図は、**青少年の健全育成に際しての、それぞれの「責任」という視点で、社会の仕組み**を表したイメージ図となっています。

青少年が自立していくまでの社会の仕組み



私たちは幼い頃から、家族や友だち、仲間と楽しく生活する中で、決まりを守り、物を大切にしながらみんなで使うことなどを学んでいきます。そして、社会生活の経験に基づき、社会生活上のルール、善悪の判断、共同、自主及び自律の精神を養っていきます。



「社会性」を身につけ、ひとりの人間として「自立」していくために、青少年の皆さんへは、下記の点を呼びかけていこうと考えています。



- ① **社会の中における、自分を自覚すること。** 必要のない人、いてもいなくてもいい人なんて、どこにもいません。そして、**この世の中にたった一人しかいない自分を大切に思うこと！**

- ② **次に、同じように他人も大切に思うこと。** さらに、自分と仲間だけでなく、社会全体のことも考えられるようになること。

(×) 集団や他人のことを考えずに、いつも自分の利害得失を優先させる





- ③ **自分の意見をきちんと表現できること。**他の人と違って構わない。自分の気持ちに正直に。もちろん、相手の意見や気持ちも尊重しよう。そして、自分と他人の意見を調整したうえで、結果を出すことができるように。

- ④ 相手や社会のために、**自分の意に反するときもある、ということを知ること。**ときには我慢をすることも大切。意に反することを指摘されても、まずは素直に受けること。(おとなに従い反論するな、ということではない!)

(×) 順番を守らない



- ⑤ **夢や目標に向かって、挑戦すること。**もし失敗して落ち込んでも、続けて何回でも再挑戦し、**失敗をバネに成長していけること。**

(×) すぐにあきらめる

- ⑥ **自分と「社会」との関係を理解すること。**子どもも「社会」の一員だから、**積極的、主体的に社会に関わること。**たとえば、近所の人とあいさつをしたり、地域や行政の行事に参加してみたり、ボランティア活動をしてみたい…。そして、「社会」の中で生きていくために、**守らなければならないこと、協力しなければいけないこと**を知ること。

(×) 社会をより良くしていこうとする努力が軽視される

(×) 他人に迷惑をかけなければ、自分が何をしても(しなくても)勝手と思う

- ⑦ あふれる情報を、自分で「取」「捨」「選択」する力を身につけること。甘い話や便利なものの裏にあるマイナス面を知るなど、自分の体と心を守る知恵をつけること。



- (×) 物や金銭など物質的なもの、快楽、利便性、効率性などが優先される

- ⑧ 子どもにも一人の人間として「権利」があることを、おとなも子どもも理解すること。また、社会における法やきまり等は、自分たちの豊かな集団生活や権利を守るためにあり、権利を重んじるとともに、「社会的な責任や義務」を果たすべきことも理解すること。

- (×) 他人への責任転嫁など、責任感が欠けている

おとなになれば、子どもでいるよりも自由になるようなイメージがありますが、自由と自分勝手は違います。この違いがわかるようになってから、「社会性を身につけた、自立した人間」として社会へと巣立っていくことが、青少年みなさんの権利であり、責任なのです！

